

媒体名:AERA
掲載日:2007年3月19日
出版社名:朝日新聞社

※「AERA」2007.3.26号『子どもの脳退化「主犯」を探せ』より平山諭教授コメント部分(P23)抜粋

倉敷市立短大の平山諭教授は、脳の働きを強くするサプリメントを開発した。ADHD（注意欠陥・多動性障害）児の対策として、21の脳活性化スキルを取り込んだ環境対話キャンプを各地で開いている平山さんも、

「子どもの脳退化の主な原因は、豊かな言葉と表情による対話の不足だ」

と考えている。2泊3日の間に子どもの症状はよくなるが、毎日キャンプは開けない。日常生活の対策を考えていた矢先、サプリを思いついた。

ADHDは脳内の神経伝達がうまくいかないことで起きる。平山さんは臨床実験で、大豆を原料とするリン脂質の一種「リパミンPS」を2ヶ月飲むと、ADHDの症状が緩和する確証を持った。

「もちろん、サプリだけでADHD症状を緩和して、脳退化を食い止められるわけじゃない。でも、できることから科学的にアプローチをしていくべきだ」

※当記事を朝日新聞社に無断で転載することを禁止いたします。